

こみゅーと

「コミュニティユニオン東京」ニュース NO-049号 2013/12/1
 170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10 東京労働会館 5 F
 TEL 03-3946-9277 FAX 03-3943-0936 E-mail staff@cutokyo.jp

レセプション・市瀬前委員長による乾杯の音頭



CU東京525人の力、20支部1000人をめざそう!

11月16日、CU東京組合員500人突破記念集会
 が、ラパスホールで開かれました。1部、関根書記
 長が「CU東京結成からの歩み」を報告。浅見和彦

専修大経済学部教授が記念講演。2部は賑やかなレ
 セプションとなりました。10の労組・団体、地域
 支部14(準備も含む)、全体で71人の出席でした。

関根書記長は、東京地評が2003年に「非正規
 労働者の受け皿組織結成」構想を提起し、2009
 年CU東京を結成させ、4年余で500人を突破し
 た。この活動の意義を噛みしめ、地域での労働
 組合の前進と奮起を訴えました。

浅見教授は「地域ユニオンの役割と展望」を
 テーマに「地域ユニオン」が誕生する歴史的な
 背景を年代ごとに追い、今日のCU東京の到達
 点や展望と課題を語りました(講演要旨は2頁)。

レセプションは小倉執行委員長の挨拶、各団
 体・労組の激励と、支部の元気ある報告で笑い
 声が絶えません。最後に、平山副執行委員長が
 地域ユニオンの前進を誓い散会となりました。

主催者挨拶 小倉一男執行委員長

CU東京が結成4年で500人を突破し、地域に
 13支部を確立したことは、地域社会の要請に応
 える重要な到達です。その意義は支部が地域労
 働者の悩みや不安を受け止め地域の労働者のよ



りどころとなる労働組合の機能
 (団結権・助け合いの共済・団体
 交渉・行動権)を提供したこと。

第二は支部が、地域労働者の要
 求を代表し、正常な労使関係の形成と地域社会
 の発展を目指す労働組合として協約、最賃、福
 祉を担う役割が期待されていることです。

組織化の教訓は、地区労・地域労連、単産・
 単組の「支援方針の確立」が必要であり、組合
 OB・活動家や協力組合員の労働相談や団交な
 どへの支援態勢が重要です。さらには職場分会
 が広がることで地域での市民権を確立できる条
 件も広がります。そして入院共済や交通共済、
 ディズニーリゾート割引などの助け合い制度が、
 連帯意識をつくり上げています。

私たちはこれまでの経験・教訓を生かし、20
 支部1000人のCU東京を早期に実現するために
 大いに奮闘していきます。今後ともご支援をお
 願い申し上げます。

記念講演する浅見教授



記念講演「地域労組の発展を求めて」

…CU東京の発展に期待すること…

(以下、講演の要旨)



浅見教授は、挨拶で「結成から4年数ヶ月で13支部500人に到達したことは、速い達成だ」と強調されました。

「地域ユニオン」が誕生する歴史的な背景

戦後の爆発的な労働組合の組織化と「工職混合」形態、「事業所別組織化」「公務員、教員の早期な組織化」「中小の組織化方針の欠如」などの日本の特徴が形成されたこと。

50年代から60年代、大企業における企業別組合主義の完成、その一方で中小の組織が前進、「合同労組、総評オルグ」、「産業別個人加盟」などの一般労働組合が発展した、しかし「協約、交渉機構が欠如」していた。

70年代に入って、中小における「倒産させないたたかい」「企業の枠を超えた集团的労使関係」の提起、産別を軸に一般労働組合への転換を図る「ゼンセン同盟、運輸一般・建設一般」。地域を基礎にした一般労働組合（地域労組、コミュニティユニオン）の誕生。

80年代の建設産業での組織化の発展（国保、共済）更に、新しい技能専門職の組織化と交渉機構の確立。パートタイムの組織化が企業別に進展。80年代公共企業体、90年代に民間大企業で「複数主義」への脱却、「少数派」労組の結成。

「地域ユニオン」の組織と運動の現状

ローカルセンターに支援された「地域ユニ

オン」は、企業別組合主義が主流、非正・中小企業労働者の「悲鳴」という背景のもとに生まれた、他の国にない「日本的特色」をもっていること。産別組合等からの批判はあったが、2001年連合が、2002年に全労連が組織化方針を確立した。次に、全国の「地域ユニオン」調査から、その活動内容、運営、財政などの特徴が説明された。

CU東京の到達点や展望

活動を進めるにあたっての基本的観点として次の点が強調された。①各支部の共通性と多様性を理解すること。②労働組合の3つの機能（共済、団体交渉、法的規制）の活用には、不均等な発展があること。③東京地評と協力し地域労連の組織強化と同時に進めること。

今後の課題として①活動家の確保育成、②職場、地域、業種、居住地などの分会組織、単産と協力して「組織可能な労働者集団」への注目、③「働く基礎知識」などのテキスト、④「地域ユニオン」のネットワークづくりを。と話された。

来賓ご挨拶

レセプションで、団体・労組から激励のご挨拶をいただきました。主な方々のご挨拶をご紹介します。（敬称略）



東京地評・伊藤潤一議長

500人突破おめでとうございます。（CU東京の）非正規労働者組織化の運動について、全労連で注目されています。支部を大きく、活動家を増やす課題は東京地評も追求しています。今後も益々発展されるようご期待申し上げます。



東京土建・白滝 誠書記長

土建とCU東京は人的と組織形態の2点で似通っています。建設労働者の多くは中小零細企業に関わっております。兄弟的な組合として今後も連帯して運動をしていきましょう。



出版労連・大塚博文副委員長

個人加盟の労働組合が横のつながりを持つ必要があります。出版関係の組合は現在15です。出版労連の事務所は文京にあります。組合運動、今後ともお付き合いをお願いします。



新宿一般労働組合・保科博一書記次長

私たちも新宿区内の未組織労働者の組織化をすすめ、500人となっています。地域ユニオン1000人をめざし一緒になって頑張りましょう。



かつしか支部長・野口弘次

葛飾は3月結成し、現在21人となりました。頼りになる「CUかつしか」へさらに大きくしていきます。葛飾区長選での支援に感謝申し上げます。(野口さんは11月の葛飾区長選に「住みよい葛飾をつくるみんなの会」推薦で立候補、大奮闘しました。4人に1人が野口さんへ投票しています。)



渋谷支部執行委員・折谷正弘

パワハラ・解雇争議、のたたかいで支部の皆さんや弁護士をはじめ多くの労働者方々の支援を受けました。雇用継続とはならなかったが、金銭解決を勝ち取りました。私はこの体験から組合を強くしていくことの必要を学びました。支部の役員として頑張っていきます。



こうとう支部副執行委員長・中村元

ローカルユニオンが大きくなる可能性、最大単組になれるのではと考えています。地域労組の条件を共通化していくことを見据える運動の展開を追求していきたい。そのためにも200人を超す「こうとう支部」をめざします。



前執行委員長 市瀬正樹

いよいよCU東京の活躍の時です。500人はまだ緒に就いたところでしょう。共に頑張りましょう。(市瀬さんはCU東京結成準備と執行委員長を4年間務めました。)

この他に、益子 茂(文京区労協)、植草克巳(金融労連)、松本秀典(東京労働共済会)、船津斌滯(品川)、作田信義(豊島・準)の皆さんからご挨拶をいただきました。お名前だけご紹介させていただきます。(4頁にメッセージ)

来賓の団体・労組は上記の他、北区労連、東京労働相談センター、東京都産業労働局労働情報センター池袋事務所、きかんし印刷の代表の方々がご出席されました。

こうとうの皆さん ご苦労様でした

レセプションは川村書記次長(こうとう)の絶妙な司会・進行によって来賓のみなさん、支部のみなさんの挨拶をスムーズにすすめることが出来ました。

ありがとうございました。

こうとう支部からは10人の組合員の出席で、会場の雰囲気盛り上げていただきました。



「こうとう支部」の仲間

記念集会へのメッセージ

全労連 議長 大黒作治

コミュニティユニオン東京500人突破、おめでとうございます。 中略

500人を突破したCU東京の到達は、地域で働く労働者の悩み、不安を正面から受け止めて労働者のよりどころとなり、正常な労使関係の形成と地域社会の発展への運動が期待されていると評価されていますが、心から共感するものです。

地域を基盤としたCU東京の運動と組織の前進を心から祈念し、激励と連帯のメッセージとさせていただきます。

東京都労働相談情報センター池袋事務所

前略 10月31日プレス発表した「平成25年度上半期の労働相談概況のまとめ」によりますと、4月1日～9月30日の労働相談件数は25,608件で-----「退職」「解雇」「賃金不払い」「嫌がらせ」が上位を占めています。-----非正規で働く労働者は2000万人を超えて増加しつつあるだけでなく-----深刻な相談も多く、(景気の持ち直し)の実感をえることはできません。企業を単位とする雇用社会では、職場における労使

自治を基調とする労使紛争の解決を前提にしています。---労働組合の組織率は、年を追うごとに低下しています---

このような状況のもと、正規・非正規を問わずあらゆる労働者が団結し、支えあいながら問題解決を図っていく労働組合の役割というものは、ますます重要になっております。中でも職場で孤立しやすく組織化が非常に難しい非正規労働者にとって、一人でも加入できる地域ユニオンの存在は、心強いものであると思われます。 略

東京都教職員組合 執行委員長 工藤芳弘

コミュニティユニオン東京500人突破記念集会に際し、働く者のいのちとくらし、憲法と平和、民主主義を守るたたかいに日々奮闘されているみなさまに心からの敬意と連帯のメッセージを送ります。 中略

憲法を改悪しようという動きが強くなる中、私たちは日本国憲法に立脚した教育をすすめるべきだと思います。人間として豊かに成長することが保障され、「人格の完成」をめざします。多くの人々と共同して、憲法を守り生かしていた教育の実現をめざします。

貴組織のますますの発展を祈念し、連帯のメッセージいたします。

支部・地域の動き

豊島支部結成される!!

11月28日、コミュニティユニオン豊島支部の結成大会が行われました。来賓含めて15人が参加。議長に東京土建の平塚さんを選出しました。

準備会責任者の作田さんは「非正規労働者、ブラック企業も増えているなか労働組合は必要です。」特定秘密保護法強行採決など安倍内閣の危険な本質にも触れて、「豊島支部は今は小さいが、とにかく結成して大きくしていくことが重要です」と訴えました。

来賓の挨拶、本部高島副委員長から情勢含めた激励を、文京支部の山田書記長は支部の活動経験、板橋区労連の峯田さんは来年の9月までに板橋でも結成するという決意と激励などが行われました。

豊島区労協議長の佐藤さんから方針案、予算案、役員候補などを提案。討論をおこないました。

討論で、区内全部の労働者が組合員の対象者という認識に一致しました。「土建の組合員は生活が厳しく、二重加盟はなかなか提起できないが、みんな地域にいたのでいろいろなところで進める

500人突破記念集会の感想

CU東京に関わって、3年になります。今年の3月に、葛飾支部も結成に至りました。毎月、増えていく組合員の数に、驚きと喜びを感じてきました。それだけ厳しい労働条件の中で働いている人たちが多くこの反映です。結成5年目で、500人を超える仲間を迎えた、CU東京の役員のひとり

葛飾支部・岡野健次

として、集まった多くのみなさんの顔に喜びを感じ、また、支部の今後の活動を考えると、身が引き締まる思いを感じた記念行事になりました。浅見先生のお話や、頂いたメッセージ、お言葉のひとつひとつの込められた、CU東京への期待をいま改めて受け止めています。

ことはできる」(東京土建)という発言もありました。組合費や、労働相談、本部のバックアップについて質問も出され、東京労働相談センターや弁護士団など東京地評との連携も報告されました。最後に全会一致で方針・予算などが承認されました。

新役員は委員長に作田信義さん、書記長に佐藤公一さん、会計に平塚浩章さんを選出しました。